

24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

妙法蓮華經觀世音菩薩普明品第三十五  
尔時無盡意菩薩即從座起偏袒右肩合掌  
向佛而作是言世尊觀世音菩薩以何因緣  
名觀世音佛告無盡意菩薩善男子若有無  
量百千萬億衆生受諸苦惱聞是觀世音菩  
薩一心稱名觀世音菩薩即時觀其音聲皆  
得解脫

若有時是觀世音菩薩名者設入大火火不  
能燒由是菩薩威神力故若爲大水所漂稱

其名号即得淺處若有百千万億衆生爲永  
金銀琉璃碑磲碼碯珊瑚琥珀真珠等寶入  
於大海假使黑風吹其船舫飄墮羅刹鬼國  
其中若有乃至一人稱觀世音菩薩名者是  
諸人等皆得解脫羅刹之難以是因緣名觀  
世音

若復有人臨當被害稱觀世音菩薩名者彼  
所執力杖尋段段壞而得解脫若三十六千  
國士滿中夜叉羅刹欲來惱人聞其稱觀世

音菩薩名者是諸惡鬼尚不能以惡眼視之

況復加害

設復有人若有罪若無罪極械枷鎖檢數其身稱觀世音菩薩名者皆悉斷壞即得解脫若三十六牛國土滿中怨賊有一商主將諸商人齋持重寶經過險路其中一人作是唱言諸善男子勿得恐怖汝等應當一心稱觀世音菩薩名号是菩薩能以無畏施於衆生汝等若稱名號於此怨賊當得解脫衆商人

聞俱發聲言無觀世音菩薩稱其名故即得解脫無盡意觀世音菩薩摩訶薩威神之力巍巍如是

若有衆生多於婬欲常念恭敬觀世音菩薩使得離欲若多瞋恚常念慈愍觀世音菩薩使得離瞋若多愚癡常念恭敬觀世音菩薩使得離癡無盡意觀世音菩薩有如是等大威神力多所饒益是故衆生常應心念  
若有女人設欲求男礼拜供養觀世音菩薩

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

使生福德智慧之男設欲求女使生端正有  
相之女宿殖德本衆人愛敬無盡意觀世音  
菩薩有如是力若有衆生恭敬礼拜觀世音  
菩薩福不唐捐是故衆生皆應受持觀世音  
菩薩名號無盡意若有人受持六十二億恒  
河沙菩薩名字復盡形供養飲食衣服卧具  
醫藥於汝意云何是善男子善女人功德多  
不無盡意言甚多世尊佛言若復有人受持  
觀世音菩薩名號乃至一時礼拜供養是三

人福正等無量財物十萬億劫不可窮盡無  
盡意受持觀世音菩薩名號得如是無量無  
邊福德之利

無盡意菩薩白佛言世尊觀世音菩薩云何  
遊此娑婆世界云何而爲衆生說法方便之  
力其事云何佛告無盡意菩薩善男子若有  
國士衆生應以佛身得度者觀世音菩薩即  
現佛身而爲說法應以辟支佛身得度者即  
現辟支佛身而爲說法應以聲聞身得度者

即現聲聞身而爲說法應以梵王身得度者  
即現梵王身而爲說法應以帝釋身得度者  
即現帝釋身而爲說法應以自在天菩薩得度  
者即現自在天身而爲說法應以大自在天  
身得度者即現大自在天身而爲說法應以  
天大將軍身得度者即現天大將軍身而爲  
說法應以毘沙門身得度者即現毗沙門身  
而爲說法應以小王身得度者即現小王身  
而爲說法應以長者身得度者即現長者身

而爲說法應以居士身得度者即現居士身  
而爲說法應以宰官身得度者即現宰官身  
而爲說法應以婆羅門身得度者即現婆羅  
門身而爲說法應以比丘比丘尼優婆塞優  
婆夷身得度者即現比丘比丘尼優婆塞優  
婆夷身而爲說法應以長者居士宰官婆羅  
門婦女身得度者即現婦女身而爲說法應  
以童男童女身得度者即現童男童女身而  
爲說法應以天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓

羅緊那羅摩睺羅伽人非人等身得度者即  
皆現之而爲說法應以執金剛神得度者即  
現執金剛神而爲說法無盡意是觀世音菩  
薩成就如是功德以種種形遊諸國士度脫  
衆生是故汝等應當一心供養觀世音菩薩  
是觀世音菩薩摩訶薩於怖畏急難之中能  
施無畏是故此娑婆世界皆号之爲施無畏  
者無盡意菩薩白佛言世尊我今當供養觀  
世音菩薩即解頸珠寶珠瓔珞價直百千兩

金而以與之作是信仁者受此法施珍寶瓔  
珞時觀世音菩薩不肯受之無盡意得自觀  
世音菩薩言仁者愍我等故受此瓔珞余時  
佛告觀世音菩薩當愍此無盡意菩薩及四  
衆天龍夜叉乾闥婆阿脩羅迦樓羅緊那羅  
摩賊羅伽人非人等故受是瓔珞即時觀世  
音菩薩愍諸四衆及於天龍人非人等受其  
瓔珞分作二分一分奉釋迦牟尼佛一分奉  
多寶佛塔無盡意觀世音菩薩有如是自在

神力遊於娑婆世界尔時無盡意菩薩以偈

門曰

世尊妙相莫我今重問彼佛子何因緣名爲觀音  
臭足妙相尊偶無盡意汝聽觀音行善應諸事所  
弘揚深移盛契思議侍多千億佛發大清淨願  
我爲汝略說聞後及見身心全不適能滅諸苦  
假使興害意推落大火坑念彼觀音火坑變成池  
或漂流滄海龍魚諸鬼難念彼觀音波浪不能沒  
或在湧沫峯爲所擋念彼觀音智虛空住

或被惡人逐墮落金剛山念彼觀音力不能損一毛  
或值怨賊違名勢加害念彼觀音咸即起慈心  
或遭毒蘗苦臨刑欲壽終念彼觀音刀尋肢段壞  
或囚禁枷鎖手足被杻械念彼觀音釋然得解脫  
咒詛諸毒藥所欲害身者念彼觀音還著於木人  
或遇惡羅刹毒龍諸鬼等念彼觀音時悉不敢害  
若惡獸圍遶利牙不可怖念彼觀音疾走無邊方  
既蛇及蝮蝎氣毒煙燄念彼觀音尋聲自息去  
雲雷鼓剝電降雹澍大雨念彼觀音應時得消散

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

衆生被因尼無量苦逼身觀音妙智力能救世間苦  
具足神通力廣修智方便十方諸國士無利不現身  
種種諸惡趣地獄鬼畜生生老病死苦以漸悉令滅  
真觀清淨觀廣大智慧觀悲觀及慈觀常願常驕  
無垢清淨光慧日破諸暗能伏穴風火普明照世間  
悲體戒甯震慈意妙大雲澍耳露法雨滅除煩惱微  
詣訟經營毗怖畏魔陣中念彼觀音衆怨悉退散  
警觀世音梵音海潮音勝彼世間音是故湧常念  
念念勿生疑觀音淨聖於苦惱死能爲作依怙

具功德功德慈眼祝衆生福聚海無量是故應頌凡  
余時特地菩薩即從座起前白佛言世尊若有  
有衆生聞是觀世音菩薩品自在之業普門  
米現神通力者當知是人功德不少佛說是  
普門品時衆中八万四千衆生皆發無等等  
阿耨多羅三藐三菩提心

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

あくまんようゆくあみのくわんよ  
とくちうがなこよ中もくらうあ  
おりひきあきとあまよはとく  
ざよせゆゆくあくまくらう  
ゆくよひくまくまくらうだく  
じあくわくよゆくものとく  
ぐくごくまくあくとくらうとく  
もくらくあくうとくあくうとく

ともあくぶもじくらうく  
うちそらくさらあくうれうとく  
うきんすくごひくとくわくも  
たもじく◆無法蓮華經とくはく  
經つねのだくうり・觀世菩薩  
きあ方持ふせうあくわくあくよ  
内がくうううううううううう  
くまうううううううううう

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

あきをたまはるのあひやうせせ  
とどりそかうのゆとあひあひり  
すんせぢくよみちと報くより  
西乃ふきひらきうづとちのゆか  
きと親をものふあひてゆをぶ  
ひのあひこを報くとらひあゆの  
名うふまんじゆふがちくとよび報  
けりつもちく一あひをだようてあ

あひゆりふもあひとよひをあ  
とうてあひを立つふとあ  
しりえもとまんとむらむと嘗  
ゆをとくわくあつてあひれ  
まひととひてくすのとくわく  
よせのととと報くとくすのとく  
き苦をあひてく薩とくわく報  
きのと紫力とくゆるをとあひれ

24

25  
26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44  
45

がまうと下へ氣生をうそじあひて  
りきうくまゆるべ。普門品との意をそな  
めどももひれうす千方あるよしゆく  
せらとさうの功徳をとつてこすす  
ふ普門とあく門とも大慈大悲の門  
きりふくふくもじ經の久くは  
と二千八百とぞりからくらひとくまうの  
うちのうゑと。身せぐとら法義經大慈

門身せぐとあられど。余時とく佛大  
慈悲とぞんりんをくじくとくに普  
門とくの本時あり。無盡意菩薩  
とく東方不軒世鬼乃きうもく普賢菩  
薩乃浦乃乃かくもく今もくとく家  
ア佛のさうわうとくとく。即從座  
起とくわうの法法乃くたうりへら  
分四十乃大衆のうりつもくとく此佛よ

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

とひき。偏祖右肩とへ天生うそを  
貴人乃まひのそとへ右肩あへども  
うそもひくとあくよのめんらへり見  
とうのゆかくうふもめんめうても  
用あくもきつるまくとへりゆゑへ。佛と  
うそもひくわくうる世をせうるよ佛波  
うりたうとくううゆへよひとせう  
とひき。善男子とへばひまくうくの

界を云。受請苦惱とへうへうきもと  
うきかうのうくはうとうくゆく  
心稱名とへまんとほんのうをとへよ無  
とへよ。即時とへうちのとへゆく。皆得  
解脫へ解へく。脱生ぬゆくよひ立  
ぎ立ちとくす。あらうと銀器のうを  
まん絶えあひてまかうのうと解  
腕を立てる。時とへみちと受持と  
うゆく。次不能曉とへまんとぞのあ

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

もととくへもせりへとめかひありとす。又  
ちがいのゆのゆとひるべ。威神力と尖  
慈大懲りうあらきすたま。若為大柰  
所漂と水よれひらりふとえへがゆ  
みあよりれて生氣の海よれりと  
そとす。金とくともとくのゆ  
とくらぶとくのまろけのめうとく全  
とくとく。銀とくをれうち鏡のゆ  
とくとく。瑠璃ともともとくとく

乃より碑碑とくをゆきあまと。礪礪とくあ  
くとくとく。珊瑚とくあくとくとくとくとく  
まうあくのゆくとくとくとくとくとく  
乃よりくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
珠とくとくとくとくとくとくとくとくとく  
のゆとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

三事あべてひとよりし。飄墮あべてうる  
くべりし。羅刹鬼國あべてうる鬼のも  
ふうら・乃至あべてうるをとうかしてあべた  
もあらとまよたよとまよとまよ。是諸人等  
とくさのれのりあきえうちのうるを能  
きもあきえうかくさくさくふてばの  
無をじううあきえうらきのあよはせ  
さううとくまんとみとみとみとみの  
まことううくとくまことう。臨當

被官とくすうへーこくすうとくす。所執刀  
杖とくろさんとくろさん。よきうううの  
かまうえう。尋段壊壊とくとくがふ  
ぐとふとえざびごひの力をもつて、とくと  
とくとくいよくとくとくとくとくとくとくと  
あとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
のふ千トのふ千今そくすふち。蒲中  
とくとくのふち。乃中よきうううとくとく  
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

ちのうの陰をうんちんちの、てのとひが  
うぶくの力もとうせんととよなうる  
る。・松板とねねをめうせうり械也  
をみう。加攢とねねを攢きうち  
ううみみうづをかじつた具うり。檢繫  
其身とく換ちとくらめひりてうとせ  
せりの繫繫空でうあ。・断壊とくらんえ  
れいきとくもうをくびくとくまと  
くわ壊きとくう。怨賊とくとくを

とくわくわとくう。・とくうとくうとく  
あり。商主とくあくとくふとくう。齊  
持とくわくわくうとく持とくうとく。重  
寶とくわくわくうとくあくとくう。經  
過とくわくわくうとくあくとくう。・經  
きう。作是唱とくわくわくとくわくと  
くうとく。諸善男とくわくわくの賣  
とくうとく。勿得恐怖とくわくとくを  
ゆとく。汝等とくわくわくの賣

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

内あぐくとすひておこしもく・無畏とい  
わよかともほそゆうすみとくふ・於此茲  
賊當得解脱とひよからうのさんとある  
ゆうとそやとと南無ともかうはまく食へ  
ゆく金とありひとまくびとあへと  
はまくとくらうらうひとくとく・無盡臺  
らはるのううとくうつゆよじんわくふ  
とよひりてかのつりきようう・摩訶薩と  
ちからうのううとと大力をゆう

うううううううううううううう  
神力と大慈大悲の方俊かとづ・巍巍  
如是とへ廢氣のううううううううと  
くよ如是をのものもののううううううと  
病歎とくわくとくわのりへうんちくく  
ううううとく・秦歌とくううううう  
ううううと下うれ沖・使得離愁と  
ううううれ念とくわくとくうう  
腹憲とくうううううううう

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

ちまうらふせりそくをうもひるを  
ゆのすり・愚癡とハニキトヨカロトヨ  
ひえは外をうきりとひりうすらひれ  
りのりふとせんをうらのうとせん  
でそんと念をうらうとせんとあへ  
ちもされぬかへととづ・多所饒益  
とふきんとせんの功徳主とゆうと  
やまうぶらうと・設欲未男とく女と  
やくあらうと・福德さんによくてお

ねとあらうと・ゆくとゆくと・ゆくと  
このよととくとくのにねとまくらうと  
ぞくよひまくと・あくとくとくとくと  
セム・有相とくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくと  
衆人よくとくとくとくとくとくとくと  
不唐捐とくとくとくとくとくとくとくと  
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

アリリのものあり。あらそくある  
アリ。・要持とひうりなり。・おまち  
さう。恒河沙ともあらへるがちのうち  
中もとざうざをあらはすのうふのとど  
のすうとのあらそくのせり。・盡取と  
とりそんあらへ。名宣をかううと。盡取と  
ひきそんそくとくのゆえ。・所見と餘  
どうそ。・嘗未とくのそくとくのゆえり。・於  
汝意え行とくをばんわづかでわそくのみ

アリ。・かのとくのゆえり。・若男ふよを  
きの飲食夜眠外臭渉草のうのやと  
きくそくとくとくとくとく。・是天福とひうと  
の英ようとくとくのゆえり。・くとての  
ゆく正等とくらひくとくよしとくめらう  
きのゆくとくとくのゆえり。・かくとくと  
くのゆくとくとくのゆえり。・かくとくと  
くのゆくとくとくのゆえり。・かくとくと  
くのゆくとくとくのゆえり。

24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

さうも。婆婆世男とひまつ。方便之方と云  
ての意もひきしらとあらうと。本尊は  
さうしたとすと方体も。佛身も。も  
三身とも。身と無事と氣と。自體では  
元と曰ふ。やうやく。得度とへどもん  
さうと。やうじと。現とあらうと。うち  
辟支佛と。のこりのことを。多く  
といひえ。經文と。多く。のちも。の経  
と。かね。經文と。多く。と。また。を。きりと  
つと。聲聞と。經論文句の。お取りづりと

と。うり。も。ふらうと。と。うり。も。あれと  
ひ。うり。うり。うり。うり。うり。うり。うり。  
うり。うり。うり。うり。うり。うり。うり。  
と。うり。うり。うり。うり。うり。うり。うり。  
と。うり。うり。うり。うり。うり。うり。うり。  
王と。うり。うり。うり。うり。うり。うり。うり。  
うり。うり。うり。うり。うり。うり。うり。  
うり。うり。うり。うり。うり。うり。うり。  
うり。うり。うり。うり。うり。うり。うり。

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

天よりはしちとひのまことをまき・大自在  
と色男の四禪天のうちも西へんりの天より  
の天もとまえの天のまへの天と大自在天とよ  
もとまえの天とも入ハ摩醯首羅天と  
天大將軍と天中の力もせあつてさるあると  
りり而自らそうとさるのかからゆくあら  
帝杖のらすともありゆだらはれとおと  
うりそひらゆめ天大将軍とまもつて毗  
波門大将軍ともあらゆとせまのあらじ  
きふ四天王のあらうつゆまのふあふまと

えいがたまをあらゆと。小王と天王と天主  
とくひだりのまこととてのとと小王とくひ  
長者とくひとくひとて能くまことふん翁  
くもまこと居たととめりとめりとめり  
うりとめりとめりとめりとめりとめりとめり  
うりとめりとめりとめりとめりとめりと  
うりとめりとめりとめりとめりとめりと  
うりとめりとめりとめりとめりとめりと  
お改用自らとととととととととととと  
門をとととととととととととととと  
うのとととととととととととととと

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

とれりくら便とみ・比丘尼との安のやくとくら  
八戒戒となりくらあまとう・優婆塞とく  
家のあめうをくつてひはくとくらあま  
長者居士牢宮婆羅門婦女とくまんとくら  
き長者のぬやくらまんとくらのまよとくら  
とくらうきうもあすとくらのまよとくら  
童女とくらまくらの男女とくらうき  
童女とくらまくらの男女とくらうき  
りうきのまよとくらの男女とくらうき  
角とくらまくらの男女とくらうき  
角とくらまくらの男女とくらうき  
ううきのまよとくらの男女とくらうき

鬼とく足のまよとく鬼とくの鬼作じとくら  
とくらまよとくのまよとくらんあめうくらうき  
うう・乾闥婆とくらまよとくのまよとくらうき  
まよとく十室山よとくら・阿修羅とくらよとくら  
そとよとくらのまよとくらとくらうき  
なまく・迦樓羅とくら唐よとく金翅鳥手とくらうき  
りうう・びきの深さとくらうきとくらうき  
三百卒方里とく・堅那羅とく天人とくらうき  
とくらう・摩牒羅伽とく眼行の大龍とくらう

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

んこのにひのすうり・入取などの八部丸のさん  
くきくみのめのからうそくよあひを云  
ふうう。執事剛神とて、ふうのちとれ  
経法とて、もじらかとて、案のゆえの詔へ  
今のもとよ度脱とて、解脫せしむるを  
怖畏とて、あはれよももとくらうもし・急難共  
ゑうううええ・施無界者とて、まざせどもと  
うううううう・解願うり・百十両金をうへ  
諸井くびよりのよみのからううて報せ書  
えさううううとて・亡者とて、徳義のそ

あらううううううううううううううううう  
ううううううううううううううううううう  
瑣とて無盡意四衆八華とて、あはくら  
せひひひひひひひひひひひひひひひひひ

とともに即時とハ時とどうつてかのよひを  
ゆづまう。多宝佛塔と多宝佛乃あらま  
ちも塔と多宝佛と多宝佛乃あらま  
本とほえやもんのひとと觀る姿  
してくらべておもむれのゆゑのふとく見えせ  
しきのあらわらのうらみとくらべておのじ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ

帝のよしもあらゆうとすとくらべておのじ  
てくらべてくらべてくらべてくらべてくらべて  
世うめ相思とくらべてくらべてくらべてくらべて  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ  
おもむれのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑのゆゑ

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

大慈大悲のあらまうどく。應諸方所と  
ちよんあんの辛うすよめでたすとくを  
あわせとひが言ふとへもうりてよひつ切  
え生とへうらはとあくとどまうよう  
の具とゆめとくすりけりうふみのまう  
座効不思議とへ教うのもとまうべくとく  
ともうとくとくとくわざとあくとくば  
うとくとくとくわざとくわざのれいにけりとく  
はれとあくわざとく・我爲汝畧説と公  
ひくわづあたひあほとくらべ・闇名を見

身とくさんとんのゆるとくとくとくとく  
ちとよきとあくとく・諸有苦とくとくとく  
くわゆゆうとくとくとく漂流とくとくとく  
くとくとくとく・巨海とく巨き太きう海波  
うり・波浪不能没とく太き小き小きりを  
沈没とくとく・須弥峯とく天びくとくとく  
地とくとくとく八方四角とくとくとくとくとく  
金剛山とく三宝東とくとくとくとくとくとく  
さ山とく不能損一毛とくとくとくとくとくとく  
身のものとくらかとくとくとくとくとくとく

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

心とからむとくま無れのちとやうてある  
より。玉難苦とく天命えそひの。歎みあを  
うめりと云。臨刑へあらつよあひ、ころ  
さかとくこゆの。ことと。因禁とく因分  
ちうじよしめがりましゆうひ。釋然とく  
禊とくまかく縛れきはるべ。咒咀とくとく内  
ろす。遷著於本今とくそのうひゆまあま  
うくをくへり八十と。圍違とくわいだい  
うりけく。疾走無邊方とくかある。ざまを  
もゆく。蛇とくうぐくべ。蛟鷗とくう

くくくく。氣毒とくふの虫たのゆゑ。雲  
雷とく黒ヤカラのうらうらをふ。消散とく消  
えらる。困厄とく困うらし厄とくうらじと  
莫厄とくうのう。神通カとくふうじの佛  
カうり。智方便とく大慈悲の方吹あり。無  
刹不現身とくらきのううふとくんとくの  
才とく不へトあり。かくのう刹とく世貴のう又  
うみのうれりあゆみ。真觀とくまくまく  
清淨觀とく假觀。うる山河草木とくま如佛  
とくそれりとく廣大智觀とく中觀。

24

25 26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

切乃法<sup>ハ</sup>トシテ心<sup>ハ</sup>シテうらわる。すん  
ちふ・悲寂<sup>ハ</sup>トハヤ候かのと親<sup>ハ</sup>トハ初の辰  
生のあやさす年<sup>ハ</sup>・意報<sup>ハ</sup>トハ年<sup>ハ</sup>大寒<sup>ハ</sup>  
をゆくも<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>常<sup>ハ</sup>暗<sup>ハ</sup>仰<sup>ハ</sup>ム<sup>ハ</sup>月<sup>ハ</sup>らかうも  
あく<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>じひ<sup>ハ</sup>モ<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>月<sup>ハ</sup>あき<sup>ハ</sup>作  
も<sup>ハ</sup>ア<sup>ハ</sup>・無垢<sup>ハ</sup>清淨光<sup>ト</sup>觀<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>る  
のあ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>・あ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>書  
月<sup>ハ</sup>からみの日<sup>ハ</sup>あり・悲體<sup>ハ</sup>形<sup>ハ</sup>雷震<sup>ト</sup>と<sup>ハ</sup>應  
乃<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>年<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>そ  
リ<sup>ハ</sup>や<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>うらの<sup>ハ</sup>つ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>は  
て<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>れ<sup>ハ</sup>て<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>が<sup>ハ</sup>大  
きの<sup>ハ</sup>方<sup>物</sup>と<sup>ハ</sup>身<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>  
と<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>法<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>は<sup>ハ</sup>法<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>み<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>滅  
滅<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>き<sup>ハ</sup>ぬ<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>退散<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>り<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>ら<sup>ハ</sup>や  
ゆ<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>宜處<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>こ<sup>ハ</sup>そ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>ふ<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>妙  
音<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>世<sup>物</sup>と<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>る<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>梵  
音<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>今<sup>年</sup>の<sup>ハ</sup>聲<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>く<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>で  
そ<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>あ<sup>ハ</sup>す<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>海<sup>物</sup>と<sup>ハ</sup>も<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>名<sup>物</sup>と<sup>ハ</sup>ま<sup>ハ</sup>  
り<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>ひ<sup>ハ</sup>の<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>  
の<sup>ハ</sup>う<sup>ハ</sup>よ<sup>ハ</sup>い<sup>ハ</sup>と<sup>ハ</sup>・<sup>ハ</sup>勝<sup>ハ</sup>彼<sup>ハ</sup>方<sup>物</sup>と<sup>ハ</sup>

24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

の世間のうちとしむれてこそうであくと  
報うるのまもと能爲作依怙とひあくのむと  
依怙らむとくえまゆるくゆゆの・福聚海  
無とらむとくやくのよとせりうすくわ  
大海のひうきうしきくすれどもえらまきうせ  
くとくとくゑ眼視衆生福聚海無量のう  
き御身經済要文ありうらむしとー・頂禮  
うふことおれれぬうとー・持池菩薩  
とくせきおとー・觀世音菩薩品とくせき門墨  
らくがりんりんをもと・自在之業とくねの  
大悲のうきうきうとー・底生人間とーうと  
ワ々普門示現神通力とくまよほに・年身  
よとんとてあまうれくがまよあくとてとくと  
ふくとく・祐遊方收の力とくと・窮屈と  
絶のせつりうとくとくとくとくとくとくとくと  
等とくじくとくとくとくとくとくとくとくと  
もあくとく・あくとくとくとくとくとくとくと  
けりとくとくとくとくとくとくとくとくとくと  
三善攝とくとくとくとくとくとくとくとくと  
まくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

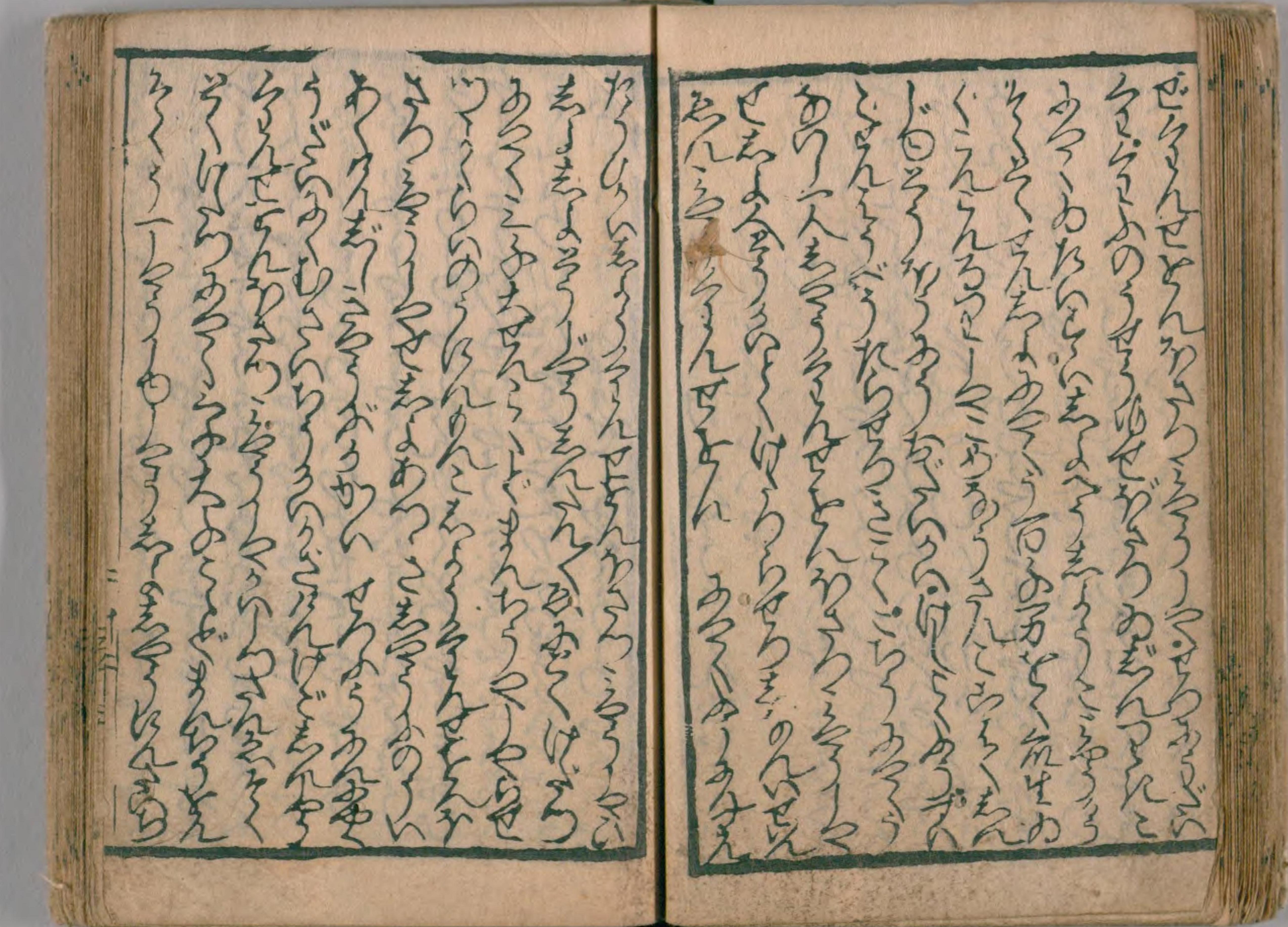
43

44

45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

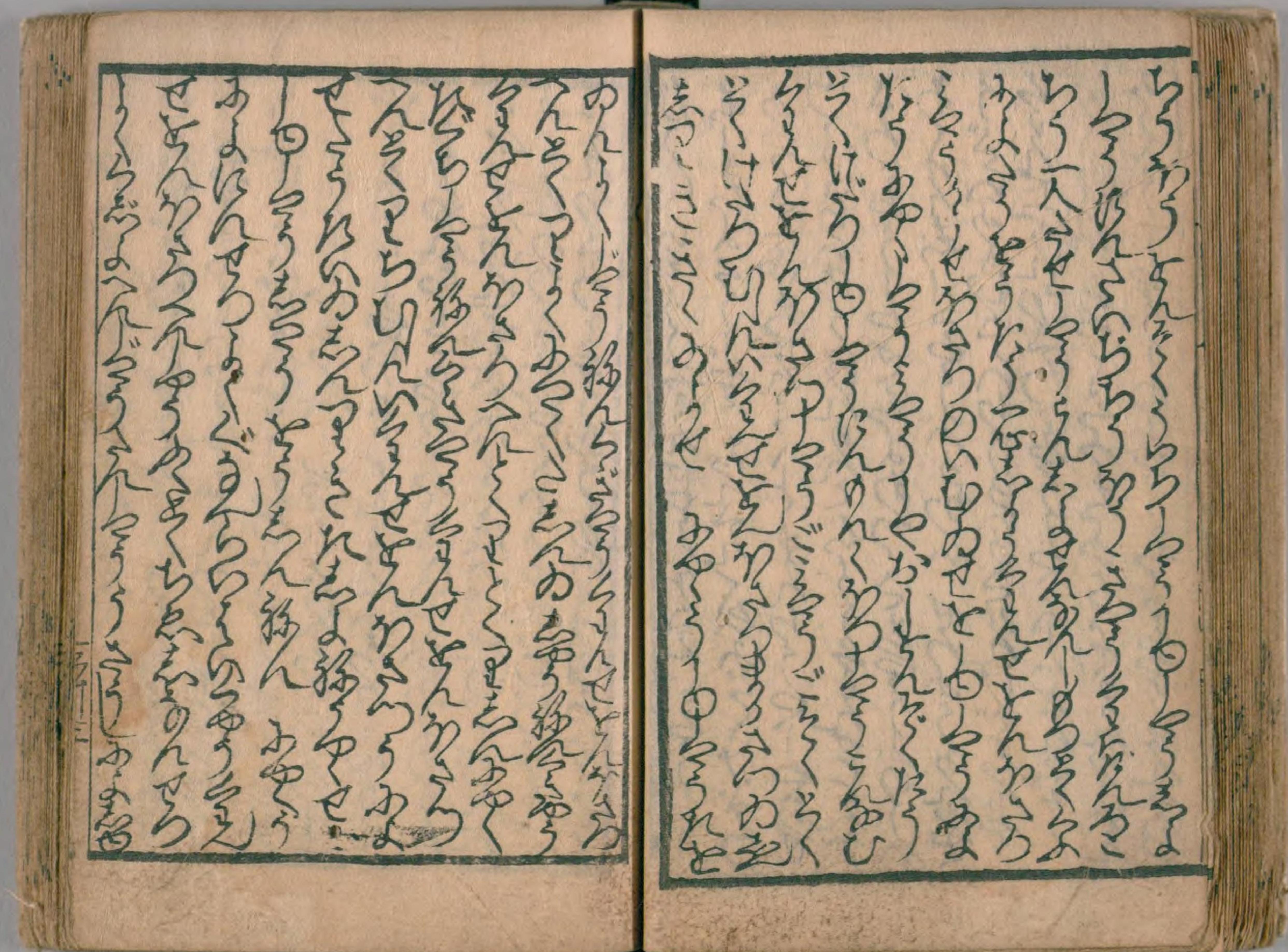
41

42

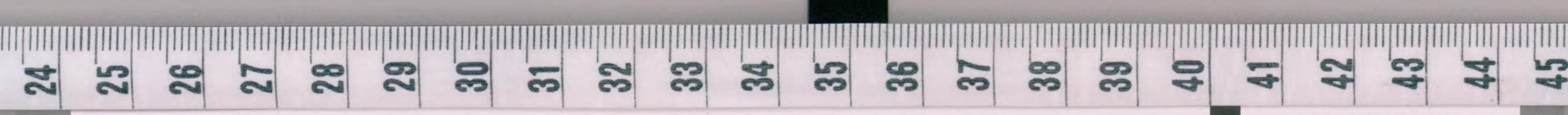
43

44

45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



もととどりてまくべかむかわゆる  
わうむわがまくべかむかわゆる  
あせかむかわゆる  
えんむくえんむく  
よとくよとく  
わうむわがまくべかむかわゆる  
えやくえやく  
トハムクスヒトハムクスヒ  
トハムクスヒトハムクスヒ

あやかしむらむらむらむら  
久食者ちあやかしむらむらむら  
しゆくしゆくしゆくしゆく  
ちゆくちゆくちゆくちゆく  
らうらうらうらうらう  
ちかうちかうちかうちかう  
トハムクスヒトハムクスヒ  
トハムクスヒトハムクスヒ

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

あふあうきよひくまくわくわくわくわくわくわく  
らうきよひくまくわくわくわくわくわくわく  
しよひくまくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわくわく  
もくわくわくわくわく  
もくわくわくわく  
もくわくわく  
もくわく  
もく  
もく

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

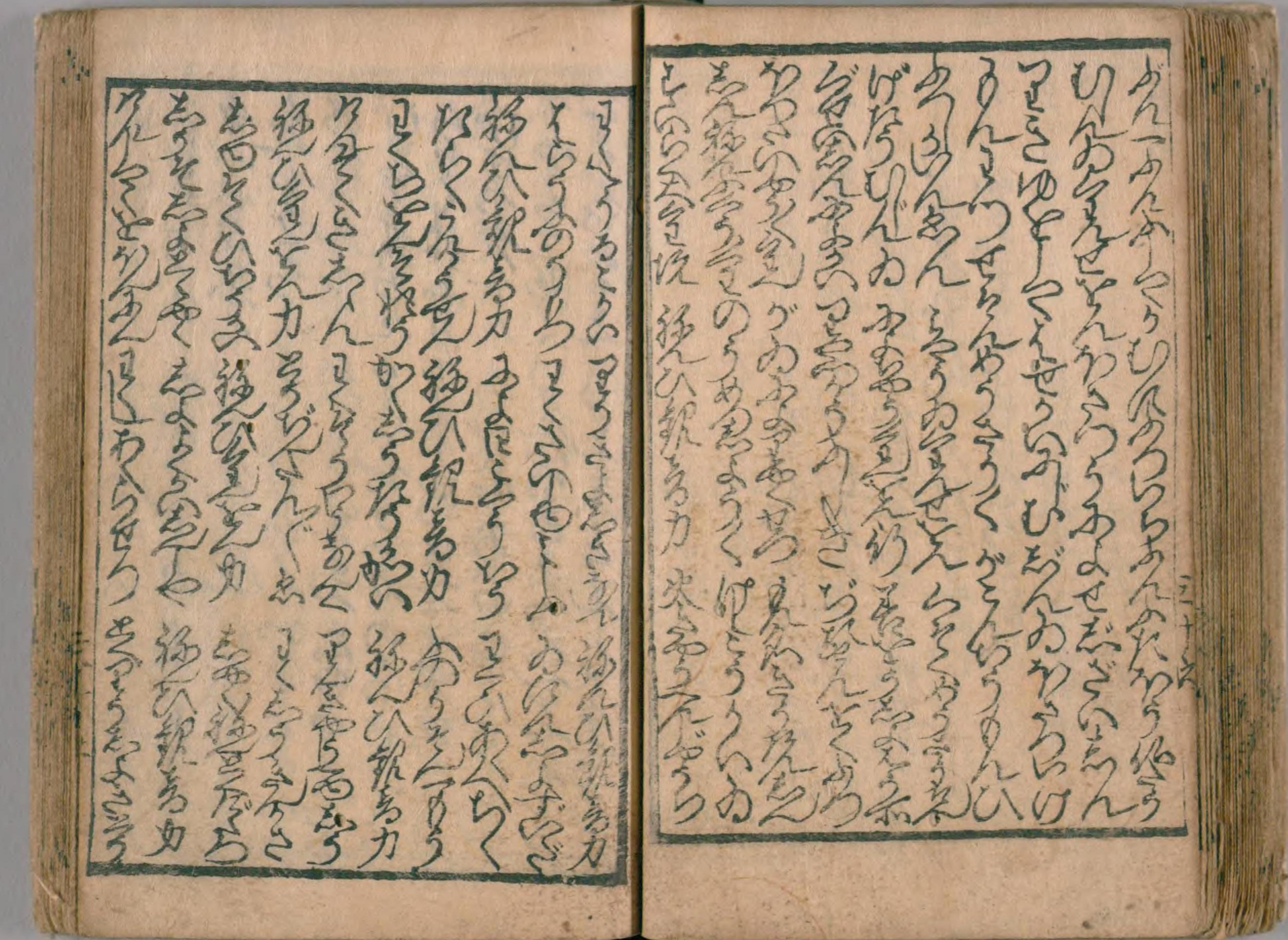
41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

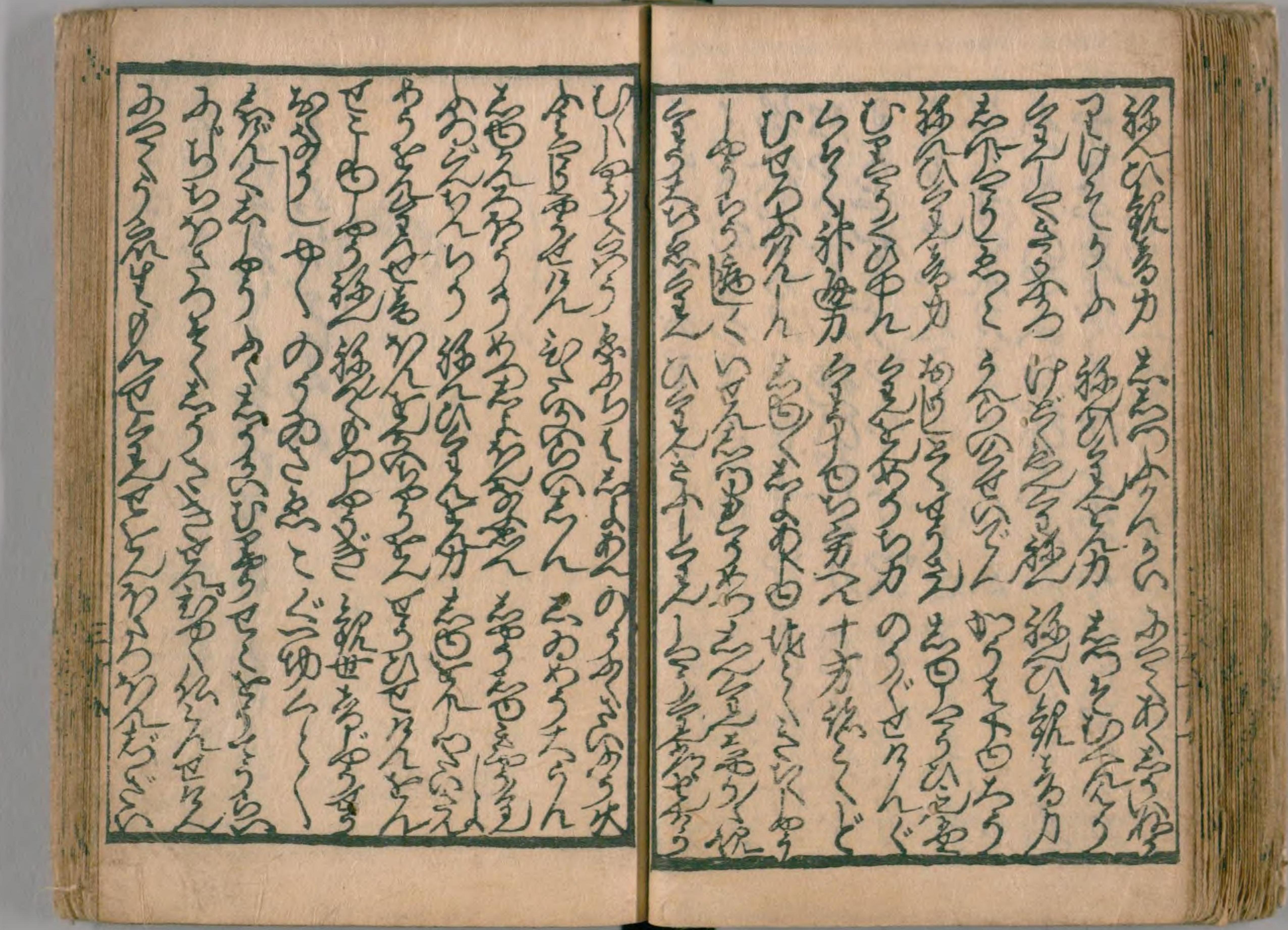
41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

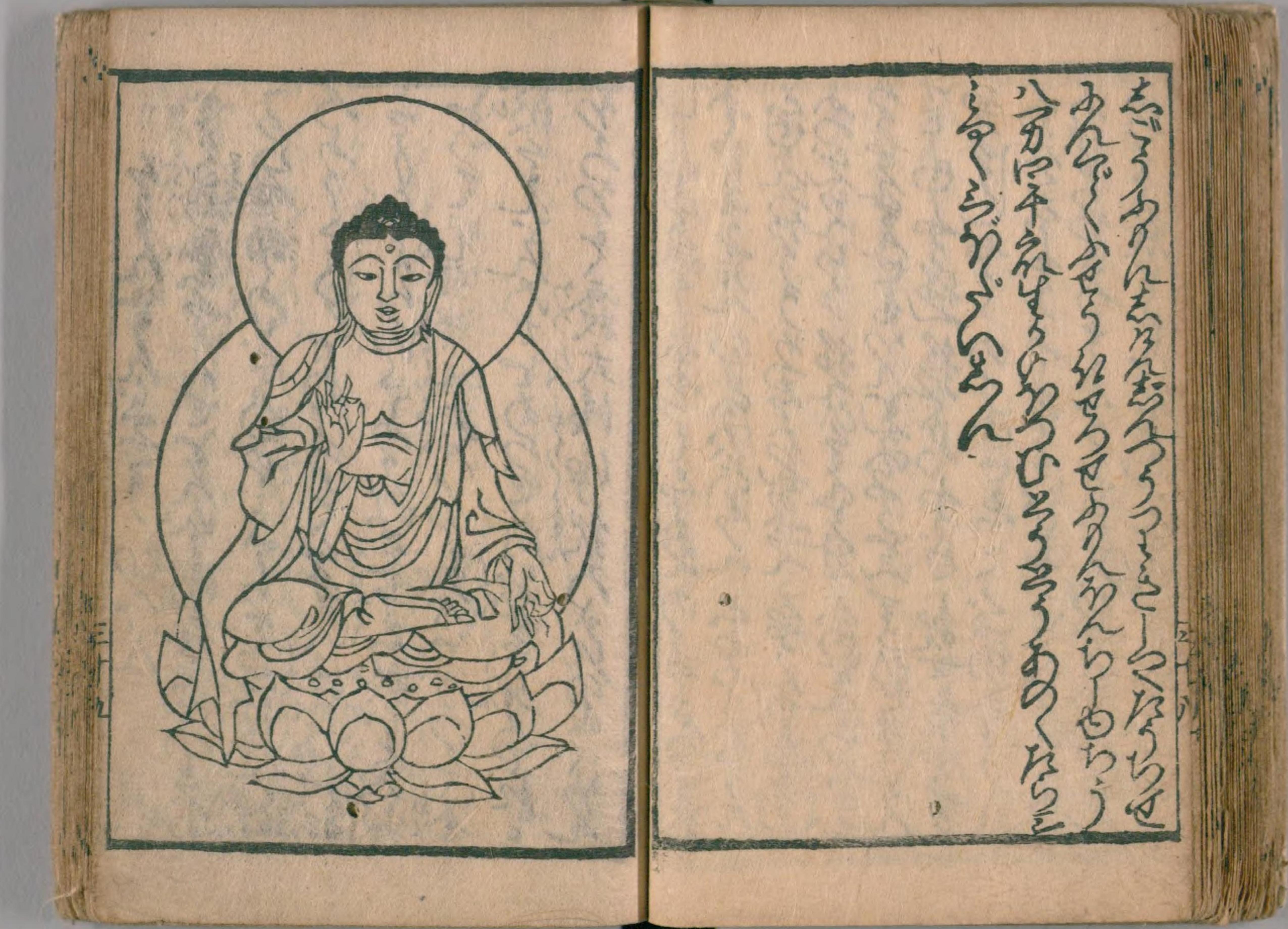
41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45

宝印とひきまうも久  
せきはるをそとんぐ剛底室乃  
より極妙のさめくとて往復の深  
ゆきありとあらゆるどじくの御海  
ときりとよりかくあひをまつる終りと乃  
はんと心咀諸毒茶の氣あへとおつて会  
彼度とさん力とあらを所欲害取ひてを  
りあひと義大清淨報乃とそのあらん

あひまうさうあひとぞいと我名は  
流乃とさうりる家忍ぬゑとめ乃と世  
もん移むるうれづつとのううち然  
き慕ひをもとを念へ勿生疑ひ用ひ  
らうひととらす本乃あうれも成  
乃大もさうやつと即從座起りてひとを  
えん寄途りしもとをあうとくを雲鼓掣  
電うさくび大氣もれもまきとくの佛

24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

かうりあらんをとくのまえを御案無  
とうじ閣は櫻令のうちのれ  
法性乃う以傷問見のれと我今定回被  
乃秋の月をせるが相具乃まうへよ  
死死乃やまひのれ  
國深のうきとわづの慈眼視聲生  
ちのじきも多ひまんまんのれ  
考のうきとく急々如律令と故有

やうりあらんをとくのまえを御案無  
テスのうめいりんへがくつをまらさる  
ちてゆくよみかとあくまきをと  
とをとをとをとをとをとを  
とをとをとをとをとをとを  
このあらんを男よりひまう百より  
のえまみそりうのまかとうとよけ  
とをとをとをとをとを

24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

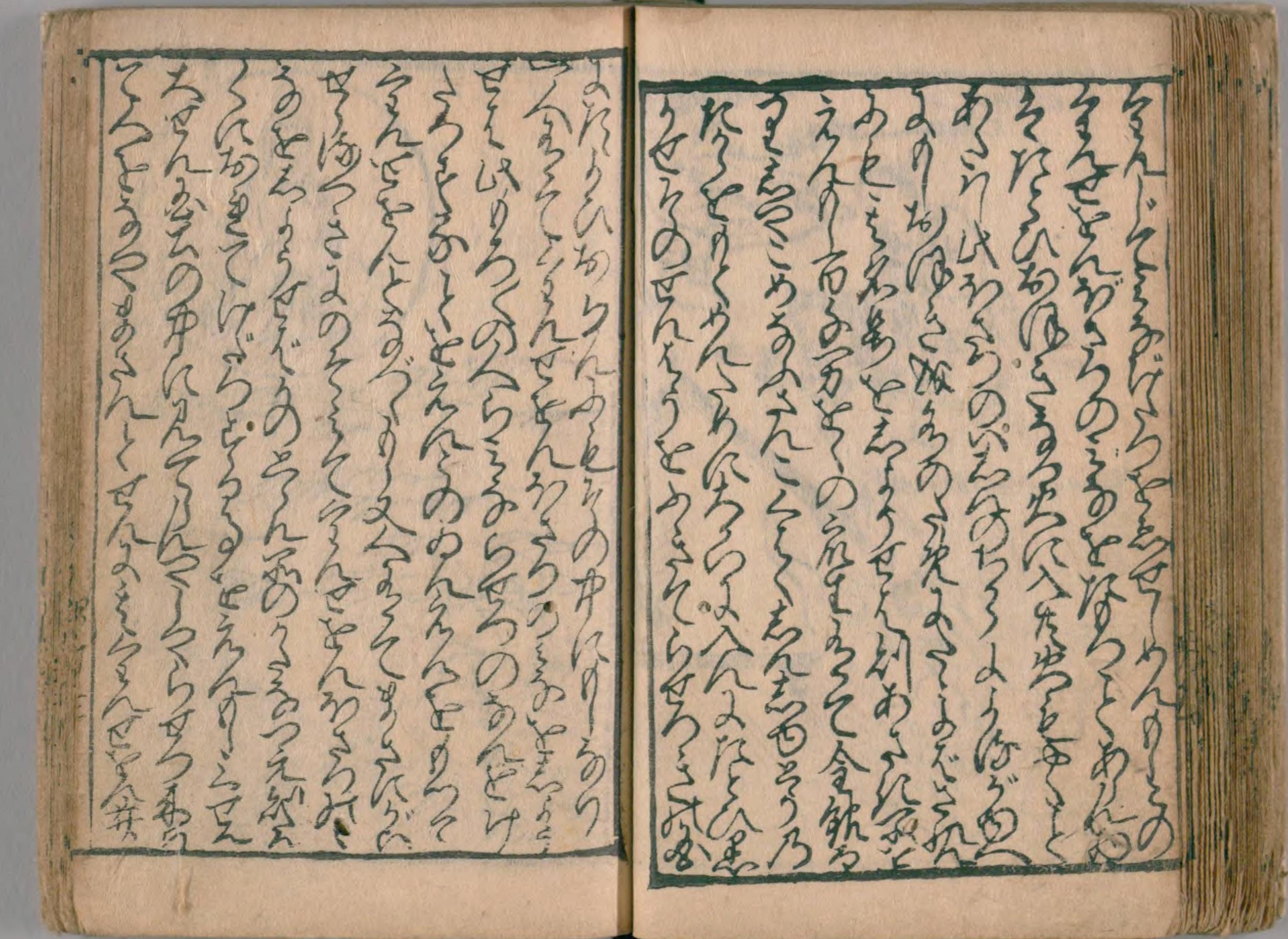
41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24

25  
26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

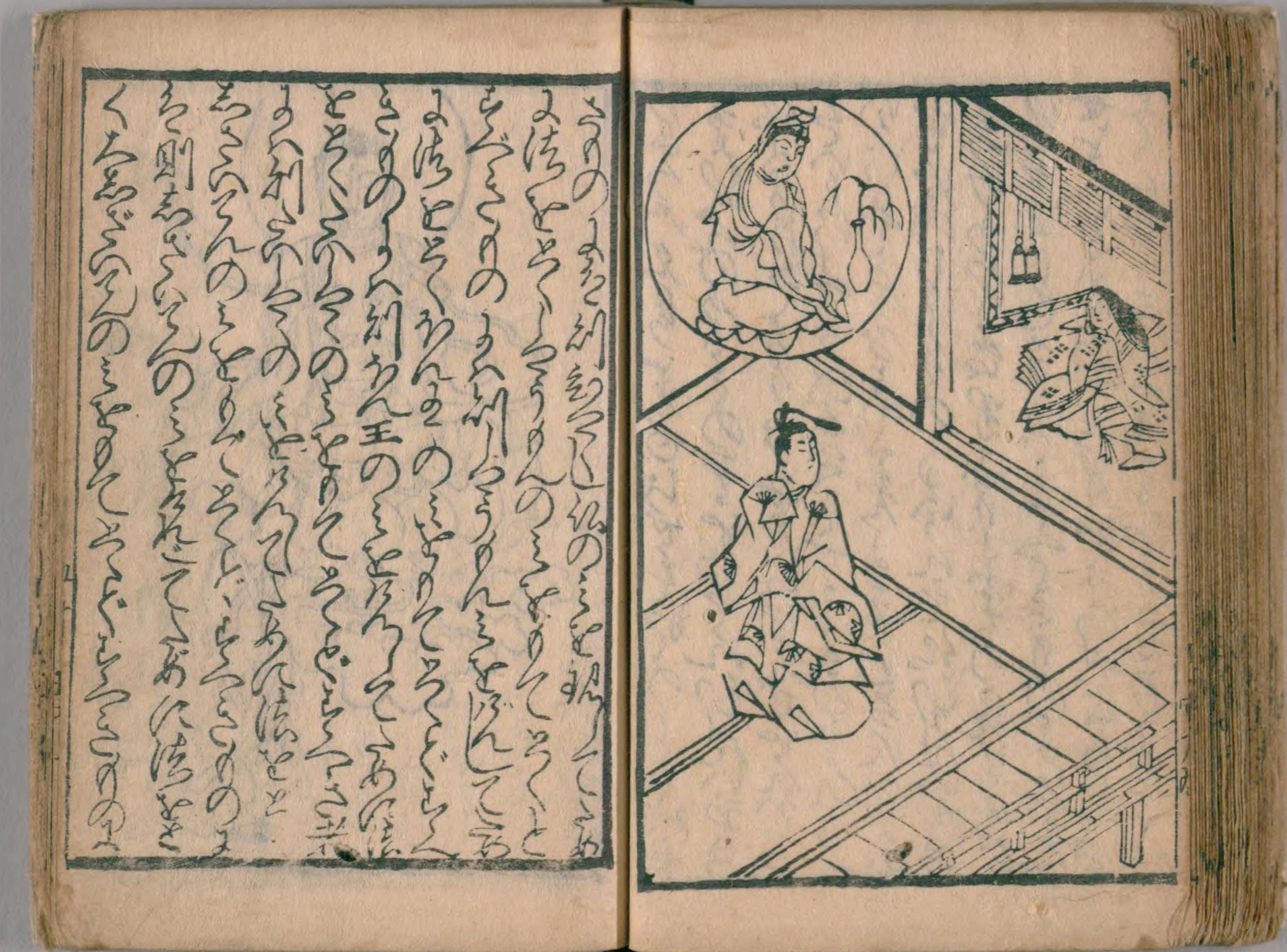
45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

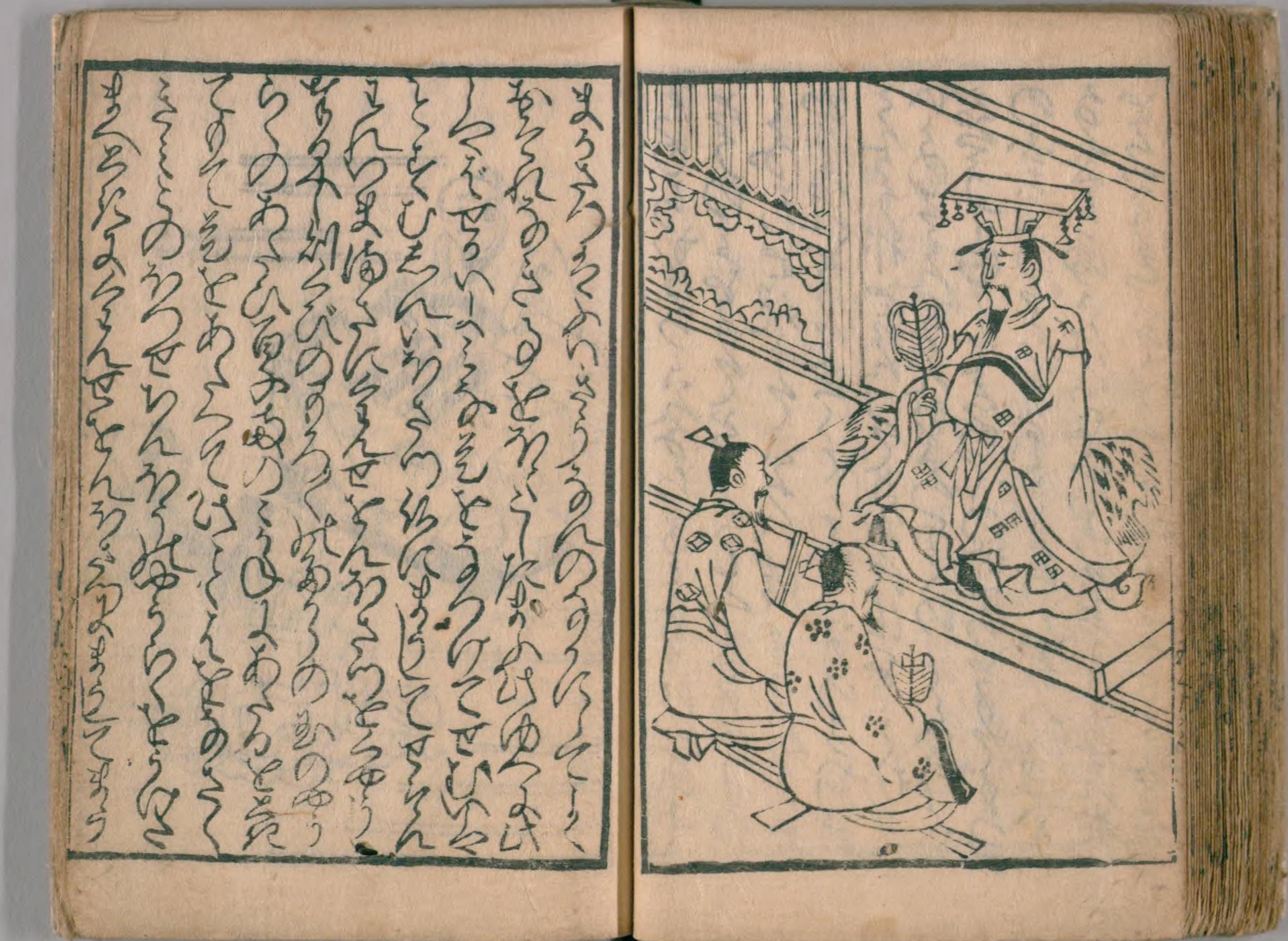
45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

41

42

43

44

45



24  
25  
26  
27  
28  
29  
30  
31  
32  
33  
34  
35  
36  
37  
38  
39  
40  
41  
42  
43  
44  
45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24

25

26

27

28

29

30

31

32

33

34

35

36

37

38

39

40

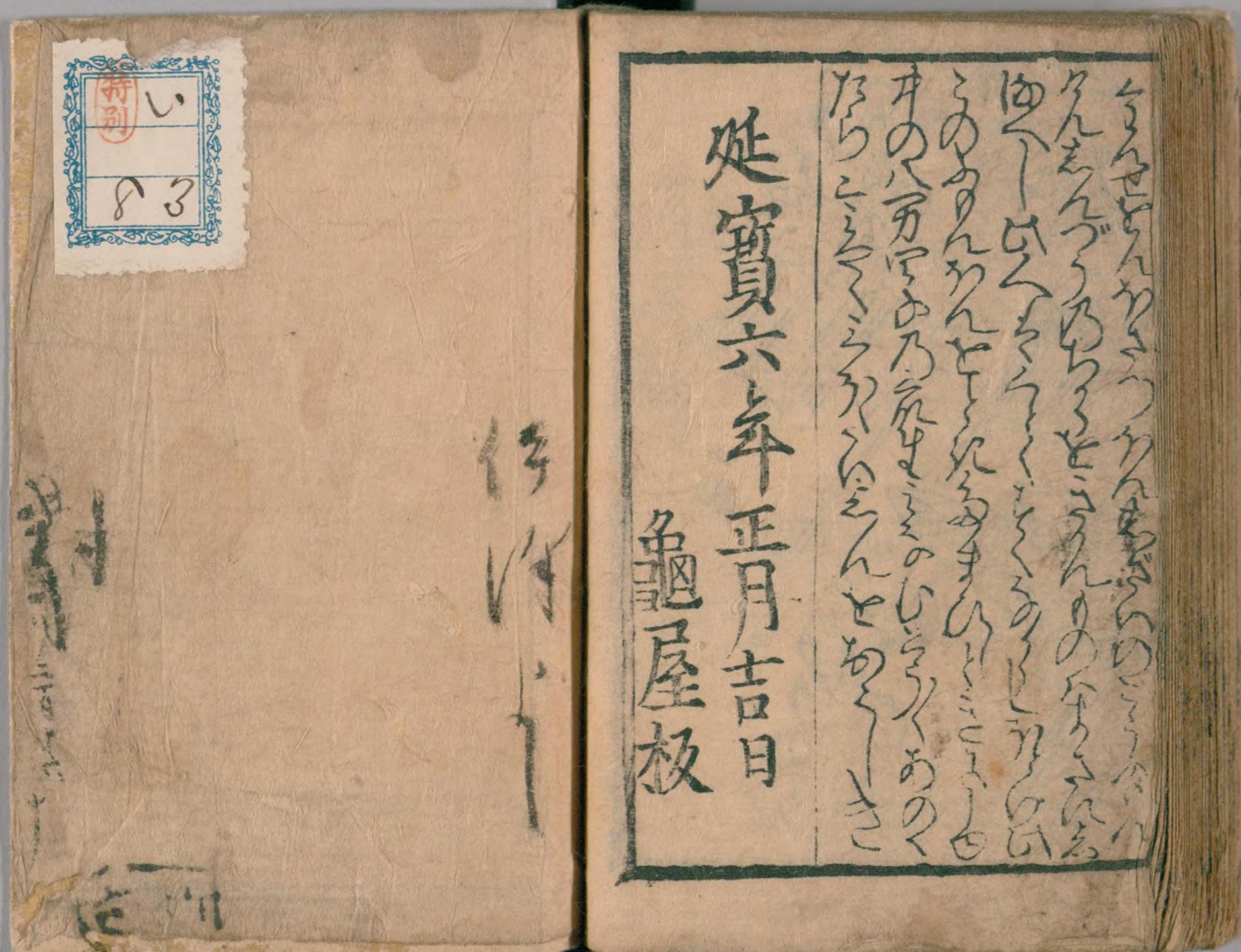
41

42

43

44

45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45



24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45

国立国会図書館

タイトル『くわんをん經註しやく』 請求記号 寄別3-6-1-1

ガラス使用